ウルトラシール施工要領書

令和 3 年 10 月

エムケービルド株式会社

１．適用

本、要領書はウルトラシールに関して適用します。

２．材料の品質規格及び施工基準

２－１ ウルトラシールＭＴＯ３７５０（床版防水）用材料の品質規格

■　ウルトラシール MT03750

項　　目	社　内　基　準　値	試　験　方　法
針入度（円錐針）25°Cmm	6　以上	舗装試験法便覧 4-12-2
軟化点　　°C	80　以上	JIS-K-2207
引っ張り強さ(23°C)N/mm2	0.2　以上	JIS-A-6021
破断時の伸び率　%	300　以上	JIS-A-6021
耐アルカリ性(23°C)	異常のないこと	JIS-K-5600-6-1
耐塩水性（23°C）	異常のないこと	JIS-K-5600-6-1

２－２ ＭＫプライマー（アスファルトプライマー）の品質規格

■　ＭＫプライマー

試　験　項　目	社　内　基　準　値	試　験　方　法
指触乾燥(時間)　0±2°C	40 分	JIS –K-5600-1-1
指触乾燥（時間）23±2°C	30 分	JIS –K-5600-1-1
不揮発分（%）	10%以上	JIS –K-6833-1
作業性	刷毛さばきに異常のないこと	JIS –K-5600-1-1
耐水性	5 日間膨れなど異常のないこと	JIS –K-5600-6-1

２－３ 強化保護シートの品質規格

■　強化保護シート

試　験　項　目	社 内 基 準 値
引張強さ　（N／50mm）	750N／50ｍｍ以上
伸び率　（%）	4%±2
厚さ　（㎜）	0.3 ㎜以上

２－４　ウルトラシール床版防水の膜厚

膜厚：1.0㎜～1.5㎜

３．　施工実施上の留意事項および施工方法

３－１ 準備･計測

本工事の施工にあたっては、設計図書及び特記仕様書にもとづいて監督職員と工事工程､施工方法､施工箇所等協議のうえ施工し､且つ工事の円滑を図ります。

施工区間については､事前に現地調査を実施､結果を監督職員に提出しその指示に従って施工しま

す。

３－２　舗装切削後の床版表面の状態の確認

床版表面のひび割れや損傷のないことを確認して監督職員にあらかじめ打ち合わせ、補修の必要の有無を打ち合わせる。必要に応じて補修の指示を仰ぐ。

３－３　路面清掃

切削面の表面の異物や脆弱な部分は適切なケレン道具を用いて除去する。その後、清掃用具などを用いて表面の異物を除去するとともに水分などはバーナーを用いて水分を十分に乾燥させる。

３－４　材料の溶解

・溶解（溶融式）

溶解はなるべく二重釜を持った間接溶解釜（ＥＺメルター・スーパーショットメルター60・パッチャーⅡ・ミニメルター30）をなるべく使用し、溶解装置にて約 230℃以下で材料を溶融します。溶融作業員は、釜内の攪拌不足（材料の品質低下）をなくす為に、溶解状況を確認しながら材料を投入します。また、溶解作業員は注入圧や吐出量の調整を操作パネルにて行います。溶解釜は完全に自動溶解で溶解温度も管理する機能を有していますが必要以上の材料を一度に溶解してはいけません。常時、制御機を監視することは必要としませんが、随時機械作動時には設定温度の確認を行い機械に異常がないかどうか確認します。

３－５　下地養生

施工箇所の確認後ガムテープや耐熱シートなどを用いて養生を丁寧に行います。

３－６　ＭＫプライマー（アスファルトプライマー）の塗布と乾燥養生

下地処理材のＭＫプライマーをローラーや刷毛など用いて均一に塗布します。塗布量は 1 ㎡あたり約 0.3Kg とする。ＭＫプライマーが指などに付着しない状態まで乾燥させる

３－７　ウルトラシールＭＴＯ３７５０（床版防水）材の塗布

専用の施工装置にて約 190℃～230℃以内で溶融したウルトラシールＭＴＯ３７５０を専用アプリケーターなどで幅 1m、膜厚 1.0㎜～1.5㎜ に塗布する。もしくは手動で膜厚 1.0㎜～1.5㎜ に塗布する。

３－８　強化保護シート設置

強化保護シートの設置はシール面にゴミなどが付着しないよう注意して張り付ける。張り付けに際してはシワ、やぶれ、破損など無いようにして、表面を軽く押さえて均一に接着させる。鉄輪などで押さえることを推奨する。

３－９　養生

強化保護シートの張り付後、施工箇所の確認後ガムテープや耐熱シートなどを丁寧に剥がします。施工後の交通開放は十分な養生時間をとる。

*上記作業（材料注入）の際、下記の事項に留意し施工にあたるものとします。

ａ　溶解釜は材料の品質を確保する為、規定される温度に保温しておく。
（ただし専用施工装置の場合のみとする）

ｂ　溶解釜が保温状態にある時は、作業者は機械のそばから離れない。

ｃ　塗布膜の膜厚はデブスゲージなどによる計測で行う。

ｄ　溶解釜操縦者及びオペレーター（シール作業者）は、相互の合図及び施工

箇所を事前に把握しておくこと。

e　上記及びそれ以外の異常が発見された場合には、直ちに作業を中断し、原因を追求しその処置にあたること。

４．　主要な作業フロー

準備

＊設計図書・発注書に基づき調査する

＊床版損傷の有無の確認

施工手順

清掃工

↓

プライマー塗布工

↓

端部処理工

↓

防水材塗布工

↓

強化保護シート設置工

↓

目地材設置工

↓

導水管設置工

留意点

【施工前】

気温5℃以上

含水比　8%以下

コンクリート床版は十分乾燥させる

砂・ほこり・油脂等は十分に掃除する

【施工時】

縁石や高欄等を十分に汚さないように養生する

端部は入念に刷毛で塗布する

プライマー乾燥時間20分～30分

防水材を塗膜後メッシュを折り曲げもう一度防水材塗布

材料温度230℃以下

火気や火傷には十分留意して安全管理に努める

塗膜 1.0～1.5mm計測

５．　出来型管理

工　　種	測定項目	規格値	測定基準	出来形管理表	摘　　要
施工膜厚	厚さ	1.0mm　～ 1.5mm	300 ㎡／1 日 1 箇所とする	膜厚を出来高管理表として作成	自社規格値